

「ふくろい10大ニュース2023」候補一覧

No.	タイトル	内容
1	成人式をリニューアルした「はたちの集い」開催<1月>	1月8日、従来の成人式にあたる「はたちの集い」が開催されました。過去2年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各中学校区ごとに分散して行われていましたが、今年は3年ぶりにエコパアリーナで開催。式典では、市内外で活躍する先輩市民等からのメッセージの披露や「20年間の歩み振り返りクイズ」なども行われ、みんなで二十歳の門出を祝いました。
2	「ふくろい首都圏交流会2023」開催<1月>	1月20日、首都圏で活躍する本市ゆかりの方々との交流を通じて、首都圏と本市をつなぐネットワークの構築・強化を図り、地方創生の実現を目指すため、東京都内の神田明神ホールにて「ふくろい首都圏交流会2023」を開催しました。「チャレンジする人を応援し続けるまち」をコンセプトに、当日は、静岡ブルーレヴズ株式会社代表取締役社長の山谷拓志さんの基調講演のほか、夢に向かい活動中の挑戦者たちによる「チャレンジ宣言」などが行われました。
3	新小学1年生に本を手渡しで贈る「サードブック事業」開始<1月>	子どもが本に触れるきっかけづくりとして行っている、7か月児・2歳児に絵本を手渡す「ブックスタート事業」・「セカンドブック事業」に続く新たな取組として「サードブック事業」がスタートしました。1月に行われた新小学1年生を対象とした入学説明会で、図書館司書から子どもたちに本が贈られました。
4	起業家を生み出す場「Startup Weekend」(スタートアップ体験イベント)を初開催<2月>	2月10日～12日、全世界で7,000回以上開催され、50万人以上が参加者しているスタートアップ体験イベント「Startup Weekend」が、袋井市で初開催されました。参加者は袋井近郊の起業家や専門家によるサポートを受けながら、スタートアップをリアルに経験しました。市長も特別審査員として参加し、市民の新たなチャレンジや活力みなぎる産業のまちづくりを応援しました。
5	月見の里学遊館開館20周年記念「市民音楽劇月のうさぎ」上演<2月>	2月26日、月見の里学遊館で市民音楽劇「月のうさぎ」が上演されました。令和3年度に20周年を迎えた同施設の記念事業「市民音楽劇プロジェクト」の集大成で、オーディションで選ばれた地域の子もたちなど約60人が、協力しながら力強く生きていく森の動物たちの様子を熱演。また、オーケストラによる臨場感あふれる生のBGM演奏や、木に板を打ち付けて音を鳴らす「歌舞伎付け打ち」による効果音が舞台を一層盛り上げました。
6	「セント・パトリックス・デーinふくろい」開催<3月>	3月17日、市役所でアイルランド音楽演奏会が開催されました。ラグビーワールドカップ2019や2020年東京オリンピックの事前キャンプで親交があるアイルランドの祝日「セント・パトリックス・デー」にあわせて行われたもので、伝統楽器のアイリッシュハーブやアイリッシュアコーディオン、フィドル(バイオリン)などの美しい響きが来場者の心に癒やしを与えました。

No.	タイトル	内容
7	静岡多目的コホート事業袋井健康長寿研究「ふくけん！」 協定締結<3月>	3月24日、静岡社会健康医学大学院大学と、「袋井健康長寿研究『ふくけん！』」に関する協定を締結しました。この研究は、特定健康診査の項目に加え骨密度や運動機能などの検査を今年と令和10年に行い、健康状態を長期にわたって追跡していくことで脳血管疾患のほか、フレイルや認知症などの加齢性疾患の発症と、生活習慣などとの関係を調べるもの。市民の健康づくり推進のため、市も研究に全面協力していきます。
8	袋井市移住交流ポータルサイト「スマイルシティふくろい」を開設<3月>	人口増加数・増加率が県内トップの本市の魅力を見える化した移住検討者向けに特化した情報サイト「スマイルシティふくろい」を開設しました。袋井での新たな暮らしがイメージしやすい情報を集約したほか、移住者インタビューや市民が投稿したInstagramの写真等、生活者目線で切り取った袋井の魅力を伝えているのが特徴です。URL： https://fukuroi-iju.jp/
9	海のにぎわい創出プロジェクト本格始動<4月>	浅羽海岸の防潮堤整備に一定の目途が立ったことから、令和4年度に立ち上げた「海のにぎわい創出プロジェクト」において、地域住民や海岸利用者の皆さんと意見交換を重ねながら「海のにぎわい創出ビジョン」を策定し、プロジェクトを本格的にスタートしました。今年度は、浅羽体育センターの敷地内に新設する休憩・交流施設兼トイレの設計や防潮堤の南北通路交流スペース、展望スペースなどの環境整備に着手しています。
10	スタートアップ企業支援施策「浜松市・湖西市・袋井市 実証実験サポート事業」始動<4月>	各市の社会的課題の解決や市民サービスの向上につなげていくとともに、スタートアップ企業等への支援により産業の振興を図ることを目的とするもので、袋井市では「AI技術を活用した排水機場の劣化状態の診断」の実証事業をサポートし、課題の解決に取り組みます。
11	自主運行バスをフッピーのラッピング車両にリニューアル<4月>	4月から、市内を運行する自主運行バスの路線や時刻の一部見直しと合わせ、車両全4台をリニューアルしました。「利用者が親しみを持てるデザイン」をコンセプトに、北部循環線は山をイメージした緑色、南部循環線は海をイメージした青色をベースに、運転手姿の市キャラクター「フッピー」を車両側面にデザインしました。
12	乳幼児相談や健診などの予約ができる袋井市おやこ保健事業予約システム「えふ☆すまいる」開設<4月>	4月から、乳幼児相談（7か月児相談・2歳6か月児相談）の予約システム「えふ☆すまいる」を開設し、インターネット予約を開始しました。これにより、乳幼児相談・健診等が、24時間予約可能となり、さらにはノンストップかつスムーズな案内が可能となりました。
13	袋井図書館内に「子ども読書活動推進センター」開設<4月>	4月から、袋井図書館内に「袋井市子ども読書活動推進センター」を開設しました。同センターでは、幼稚園、認定こども園等の図書コーナーや小・中学校の図書館と市立図書館を結び、子どもたちが将来にわたって読書に親しむことができるよう、乳幼児期から中学生期までの読書活動を、発達段階に応じ、一貫して切れ目なく支援していきます。
14	あさば保育園敷地内に子育て支援センター「あさばみなみ」新設<4月>	4月3日から、あさば保育園の敷地内に、子育て支援センター「あさばみなみ」がオープンしました。本センターの新設により、市内の子育て支援センターは8施設となりました。

No.	タイトル	内容
15	袋井高校パソコン部によるプロジェクションマッピング披露<4月>	4月9日、「袋井の四季」を表現したプロジェクションマッピングにより法多山の本堂が彩られました。「袋井の魅力を伝えたい」という思いで袋井高校パソコン部の生徒たちが企画したもので、企画に賛同した（一社）ペイフォワードシズオカの支援の下、昨年7月下旬から準備を実施。多くの方からの支援を受け、「Fukuroi High Schools Challenge」として企画が実現しました。
16	オリンピック高瀬慧さんによる走力アップクリニック開催<4月>	4月22日、ジュニアアスリートがトップアスリートから直接指導を受ける「トップアスリート交流事業」として、ロンドンおよびリオデジャネイロオリンピックに陸上短距離で出場した高瀬慧さんを講師に招き、エコパスタジアムで「走力アップクリニック」を開催しました。（9月に2回目も開催）袋井市・森町の中学校の陸上部員約120人が参加し、憧れのオリンピックから、走りの姿勢づくりや動きづくりなどの基礎のほか、ゴールまでスピードを維持するポイントなどの指導を受けました。
17	中遠地域4市の若手職員による「遠州どぼくら」結成<4月>	4月、袋井市・磐田市・掛川市・菊川市と袋井建設業協会、静岡理工科大学が連携して「遠州どぼくら」を立ち上げました。建設産業を担う人材の確保と育成を目的に発足したもので、Instagramで建設業界の仕事や工事現場の様子、技術職員の生の声などを発信し、建設業界のイメージアップを目指します。
18	性の多様性などの理解促進を目的とした「にじいろ階段」を市役所内に設置<4月>	4月10日から6月30日、市役所の階段を虹色に装飾する「にじいろ階段」が登場しました。性の多様性や多様な価値観について考えるきっかけづくりとして設置したもので、LGBTQなど性の多様性の理解と尊重のシンボルとして世界中で使われている「レインボーフラッグ」をモチーフに、性別や国籍、年齢、障がいなどの多様性やボーダレス化をグラデーションで表現しました。
19	若者の留学を後押しする「子ども・若者海外留学支援事業」始動<4月>	海外留学に必要な経費に対して奨励金を交付する「子ども・若者海外留学支援事業」を4月から新たに実施しました。海外留学という新たなチャレンジをする中学生から22歳までの子ども・若者を応援します。第1期には、10人が夏休み期間を利用してオーストラリアやカナダへ留学しました。今後、第2期生も冬休みや春休み期間などを利用して海外留学にチャレンジする予定です。
20	袋井市を含めた県西部7市町がジュビロ磐田のホームタウンに追加<5月>	ジュビロ磐田が今年でJリーグ昇格30周年を迎えることを契機に、5月16日に、本市を含めた県西部7市町がホームタウンに追加されました。今後は、ホームゲームでのおもてなしブースの出展やコラボグッズの作製などに取り組んでいきます。
21	ふくろい5330(ごみさんまる)運動実行宣言キャンペーン開始<5月>	ごみへの意識を変え、可燃ごみ削減に取り組むことを市民一人ひとりが宣言する「ふくろい5330運動実行宣言」を5月から開始しました。 <宣言項目（取組内容）> 1「雑がみ」を資源としてリサイクルします 2「プラスチック製容器包装」を分別し、燃やせるごみに出しません 3「生ごみ」を減らします
22	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行<5月>	5月8日から、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが「5類感染症」に変更され、基本的に季節性インフルエンザと同様の取扱いになりました。

No.	タイトル	内容
23	4小学校で市営プールを活用した水泳授業開始<5月>	本市の学校プールが抱える、老朽化をはじめとした様々な課題の解決に向け、令和3~4年度に市営プールを活用した水泳授業の実証事業を行いました。その結果を踏まえ、5月10日から4小学校（三川・高南・浅羽北・浅羽南）で市営プールを活用した水泳授業が本格的に始まりました。
24	人材育成基本方針の見直しに向け「袋井未来職員創作アドバイザー」就任<5月>	人材育成基本方針の見直しにあたり、民間の取組みや視点のアドバイスをいただくため、株式会社アナザーワークスとの連携協定により、「袋井未来職員創作アドバイザー」を全国から公募しました。36人から応募があった中、書類審査・面接を経て、南郷佑奈さんをアドバイザーに決定。5月から11月までアドバイザーとして活躍いただきました。
25	「省エネ家電買替え促進事業補助金」開始<6月>	エネルギー価格が高騰する中、家計負担の軽減とともに、脱炭素を推進するため、一般家庭を対象に、省エネ性能の高い家電への買替え費用の一部補助を6月1日から実施しました。蛍光灯からLED照明器具への取り替えと、省エネ基準をみたく冷蔵庫・エアコンの買替えを補助対象とし、本市の脱炭素の推進を加速させました。
26	台風2号と梅雨前線に伴う大雨で「警戒レベル5緊急安全確保」発令 市内でも被害が発生<6月>	6月2日から3日にかけて、台風2号と梅雨前線に伴う大雨により、三川・今井・村松・高南地区に「警戒レベル5緊急安全確保」を発令。市内でも床上・床下浸水や土砂崩れ、道路冠水などの被害がもたらされました。
27	全国初の「グリーン給食」を全小中学校で提供<6月>	6月に、子どもたちに食糧問題について学んでもらう機会として、市内の小・中学校、幼稚園等で「藻」をはじめ、袋井市産のコマツナやチンゲンサイなど緑色の食材を豊富に使った「グリーン給食」が提供されました。黒はんぺんに米粉と粉末状のナンノクロロプシスという藻を付けて揚げた「黒はんぺんの藻揚げ」は、「ノリみたいな香りではんぺんと合っていた」など、味も好評でした。
28	クラウンメロンを題材とした絵本が全国広報コンクール総務大臣賞&BSよしもと賞を受賞<6月>	6月23日、栃木県栃木市で開催された令和5年全国広報コンクール授賞式において、クラウンメロンを題材とした絵本「おうさまのメロンはどこへいった？」が、広報企画部門において最高位の特選に選ばれ、総務大臣賞とBSよしもと賞をダブル受賞しました。この絵本は、令和3年度に制作したもので、全国の公立図書館や市内の幼稚園・保育園等に配布し、絵本を通じてクラウンメロン及び市のPRに活用しています。
29	東海道どまん中ほうじ茶ペットボトル販売開始<6月>	袋井茶振興協議会は、袋井産茶葉100%を使用した新商品「東海道どまん中ほうじ茶」ペットボトルを開発し、6月28日から販売を開始しました。同協議会では、近年需要が拡大しつつある「ほうじ茶」に着目し、ほうじ茶の原料となる秋冬番茶の利用拡大なども見据え、令和4年度から研究を進めてきました。
30	久野城址保存会が第2回日本城郭協会大賞を受賞<6月>	6月15日、久野城址保存会が「日本城郭協会大賞」を受賞しました。この賞は、城郭文化の振興に貢献した団体・個人を顕彰することを目的に日本城郭協会が令和4年度に創設したものです。久野城址の地域のシンボル化を目指し、法人会員を募集するなど組織の強化・拡大を図ったほか、毎年開催している地元・袋井北小学校の6年生を対象とした「久野城教室」、広大な城址内の草刈りなど、長きにわたる地道な取り組みが評価され、受賞に至りました。

No.	タイトル	内容
31	週末に無料で搬入できる家庭草木回収所を春岡に新設＜7月＞	7月8日、市民が草木をリサイクルするために直接草木を搬入できる家庭草木回収所を新たに設置しました。 「ふくろい5330運動」の一環として、家庭から出る草木のリサイクルに取り組んでおり、今までの希望自治会への草木回収コンテナの設置や、中遠クリーンセンター・民間業者での回収に加え、土・日曜日に直接搬入できる拠点回収所を設置し、搬入の利便性を向上しました。
32	「ふくろい遠州の花火」4年ぶりに開催＜7月＞	7月29日、原野谷川親水公園で「ふくろい遠州の花火」が開催されました。 過去3年間は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため開催が見送られた中、待望の開催となった今大会。スターマインから始まり、本市ゆかりの偉人「三浦環」にちなんだ講演や流行歌、交響曲などに合わせて打ちあがる多彩な演出で会場を盛り上げました。 最後を締めくくったのは「日本一ジャンボワイドスターマイン」。幅300メートルにわたって数千発の花火が一斉に打ち上がる様はまさに圧巻で、会場は大歓声と鳴りやまぬ拍手に包まれました。
33	任意団体が手掛けた子育てハンドブック「はなさき」完成（協働まちづくり事業）＜7月＞	任意団体「ふくろい子育てハンドブックはなさき編集委員会」が、子育て世帯の支援を目的に、市内の18歳までの子どもを持つ世帯向けに、支援センターや園、児童クラブなどの子育て情報や心配事の相談先などの情報を1冊にまとめたハンドブックを作成しました。 協働まちづくり事業を活用して作成したもので、市内の保育園・こども園・幼稚園・小学校を通して、子育て世帯に配布しました。
34	地域の課題解決がテーマ「スタートアップ・パブリックピッチ2023in遠州」開催＜8月＞	8月4日、本市を含めた、県西部の8市1町が地域課題の解決に向けて民間企業から事業提案を受ける「スタートアップ・パブリックピッチ2023 in遠州」が菊川市役所で行われました。 スタートアップ企業との連携による地域課題解決を目的としたもので、当日は、全国から審査を経て選りすぐられた9事業者が自社製品やサービスなどをPRし、各市町での導入や実証実験の可能性を探りました。
35	広島平和記念式典へ中学生を派遣＜8月＞	8月5～6日、市内4中学校の代表生徒16人が、広島平和記念式典中学生派遣団として広島市を訪れました。 5日は、原爆ドームや広島平和記念資料館などを見学したほか、市民が折った千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納。6日には平和記念公園で開催された広島平和記念式典に参列し、核兵器の恐ろしさと平和の大切さを学びました。+C32:C37
36	ふくろい版ホームステイを4年ぶりに再開＜8月＞	8月26・27日、「ふくろい版ホームステイ」が4年ぶりに行われ、コロンビア・モンゴル・イギリス・フランス・メキシコなど7か国の外国人留学生10人が市内の家庭に宿泊し、交流を楽しみました。 市民が異文化に触れることやコミュニケーションを通して異なる価値観や考え方を理解することを目的に実施しているもので、市内の観光名所巡りや日本ならではの食事など、様々な体験を通してホスト家庭とゲストが交流を深めました。
37	エコパでは最後となる「学生フォーミュラ日本大会」開催＜9月＞	8月28日～9月2日、学生たちが設計・制作したレーシングカーの性能を競う「学生フォーミュラ日本大会2023」が小笠山総合運動公園で行われました。 未来のエンジニア育成を目的に開催されている大会で、ガソリンエンジン車と電気自動車（EV）の2部門で構成。地元・静岡理科大学はEV部門で出場しました。来年からは会場が愛知県常滑市に変更となることが決定しており、ホームでの最後の大会にメンバーは全力を尽くしました。

No.	タイトル	内容
38	ラグビーワールドカップ2023フランス大会日本戦パブリックビューイング開催<9・10月>	<p>9月10日、さわやかアリーナでラグビーワールドカップ2023フランス大会日本対チリ戦のパブリックビューイングが開催されました。市内外から約200人が集まり、画面越しに熱い声援を送りながら試合を観戦。最後は42-12で日本が見事勝利を収め、会場は歓喜の渦に包まれました。</p> <p>また、10月8日、決勝トーナメント進出をかけた日本対アルゼンチン戦でもパブリックビューイングを実施。日本は27-39で惜しくも敗れてしまいましたが、試合終了後には会場から盛大な拍手が湧きあがりました。</p>
39	東海アクシス看護専門学校創立30周年記念式典<9月>	<p>袋井市上田町の東海アクシス看護専門学校で、9月22日に「創立30周年記念式典並びに記念講演会」を開催しました。</p> <p>記念講演会では、看護師であり漫画家の広田奈都美さんにより、「磨け ナースの力」を演題に看護という仕事の魅力、そして訪問看護の魅力についてスクリーンのイラストに合わせ講演会が行われました。</p>
40	全国初「書かない・行かない窓口モデル事業」始動<9月>	<p>9月25日、愛媛県・愛媛県今治市・鹿児島県阿久根市とともに、デジタル田園都市国家構想交付金の採択を受け、全国初となる「市民窓口多様化モデル事業」のキックオフ会議を行いました。</p> <p>本事業は、マイナンバーカードと電子申請を活用した、書かない、行かない窓口を推進することにより、市民の必要に応じた行政手続きが、簡易に漏れなく行えるようにするものです。</p> <p>愛媛県副知事・今治市長・阿久根市長が袋井市長とオンラインで繋がり、互いの行政課題や事業に対する意気込みを語りました。</p>
41	一般社団法人アザレア・スポーツクラブとのパートナー協定締結<9月>	<p>9月29日、エコパを拠点とするアザレア・スポーツクラブを本市のパートナーとして位置づけ、スポーツ振興をはじめ、次世代を担う人材育成、さらには、地域課題を共に解決し、地域振興に繋げていくため、パートナー協定を締結しました。</p> <p>今後、市キャラクターフッピーを活用したアザレアセブンの知名度向上事業、ウクライナ出身のナタリヤ・コザチュク選手監修のウクライナ料理給食メニューの市内学校での提供などを予定しています。</p>
42	中東遠総合医療センター開院10周年記念式典<9月>	<p>9月30日、中東遠総合医療センターが開院10周年の記念式典を行いました。</p> <p>10周年記念事業として市民から募集した「健康かるた」の読み句の発表や、病院歌「金木犀、咲き誇る明日へ」の披露などが行われました。</p>
43	「袋井市犯罪被害者等支援条例」施行<10月>	<p>犯罪被害者等が平穏な生活を回復できるよう支援するため、犯罪被害者等の支援に関する市や市民等の責務（役割）などを定めた「袋井市犯罪被害者等支援条例」を制定し、10月1日から施行しました。</p> <p>犯罪被害者等の支援に関して二次的な被害の防止に配慮しつつ、相互に連携を図りながら、適切な支援を円滑に行っていきます。</p>
44	子ども医療費助成事業の制度拡充により高校生年代までの医療費の完全無料化<10月>	<p>子どもの疾病の早期発見や重症化の予防を目的に、0歳から就学前までを対象として無料化していた子ども医療費が、10月診療分から高校生年代まで拡大しました。</p> <p>これとあわせて、今まで助成対象外だった入院時の食事療養費も無料化となりました。</p>

No.	タイトル	内容
45	オリンピック杉本幸祐選手&遠藤尚さんによる体の動かし方講座の開催<10月>	10月2日、さわやかアリーナで「体の動かし方講座」が開催され、市内の小中学生約30人が、北京2022冬季オリンピックにフリースタイルスキー・男子モーグルで出場した本市出身の杉本幸祐選手と、バンクーバー2010冬季オリンピックなどに同種目で出場した遠藤尚さんから、スポーツ全般で役に立つ、けがを防止するためのストレッチや体幹の鍛え方などを学びました。
46	読書週間に合わせて、絵本や物語の中の料理が登場する「絵本給食」実施<10月>	10月18日～31日、絵本や物語の中の料理を給食に登場させ、読書活動と食育双方の充実を図る「おはなし給食」を実施しました。 市立図書館、学校と連携し、市立図書館や学校図書館にある絵本『きつねのホイティ』のおはなしの中に出てくる料理や食べ物を給食のメニューにして全小中学校で提供しました。（ごはん、ココナッツミルク入りやさいかレー、さかなのフライ、はちみつヨーグルト）
47	オリンピック銀メダリスト塚原直貴さんによる「NEW!!わかふじ国体」20周年記念講演会開催<10月>	10月29日、さわやかアリーナで北京オリンピックメダリスト・塚原直貴さんによる「スポーツを支えることの大切さ」をテーマとした講演会が開催されました。 2003年にエコパスタジアムをメイン会場に開催された「NEW!!わかふじ国体」から20周年を記念して市が主催したもの。当時、長野県選手団として袋井北地区に民泊した塚原さんは、民泊受け入れ家庭や当時を支えたボランティアの方への感謝の気持ちを表すとともに、スポーツを支えるボランティアなどが大会前の選手の安心感につながる大切な存在であることを伝えました。
48	姉妹都市提携35周年記念姉妹都市ヒルズボロ市とのトップ会談<11月>	11月2日、姉妹都市提携締結35周年を記念し、大場市長とヒルズボロ市のスティーブ・キャラウェイ市長がオンラインで交流しました。両市長は、これまでの交流を振り返るとともに、今後の友好関係の継続を誓い合いました。 また、記念にヒルズボロ市からは地元のプロ野球チームのユニホーム、本市からはオリジナル法被をプレゼント。35周年にちなみ、互いに選んだ35冊の本の交換も行いました。
49	袋井商業高校創立100周年記念式典開催<11月>	11月10日、袋井商業高校創立100周年記念式典がさわやかアリーナで開催されました。 式典では、生徒会長から「先輩方が見つないできた100年の歴史をこれからも繋ぎ、この学校を誇りに思えるよう努めていく」と誓いました。 また、当日は、ワールド・ベースボール・クラシック(WBC)で監督として日本代表チームを世界一に導いた、栗山英樹さんの講演も行われました。
50	オリンピック金メダリスト高橋礼華さんのバドミントン教室開催<11月>	来年開催されるパリ2024オリンピックに向けて、市民のスポーツ取組意欲を喚起するとともに、子どもたちが各種競技に取り組むきっかけを提供することを目的に、さわやかアリーナで「FUKUROI SPORTS DAY2023」を開催しました。 イベントでは、リオ五輪で日本バドミントン悲願の金メダルを獲得、“タカマツペア”で大活躍された高橋礼華さんを講師に招いたバドミントン教室も開催され、多くの子供たちが金メダリストからの指導に耳を傾けていました。